

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔で、健やかに、和やかに、私らしく生きる」「お互いを思いやり楽しく過ごす」「むかしながらの住み慣れた場所で、顔なじみの人たちと一緒に、今までどおり暮していく」		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全員が見ることのできる食堂に理念を掲げてあり、職員は常に意識しながら行動している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては理念を説明している。地域のかたや来訪者には掲示してある理念の説明をしている。		地域に対してもっとPRしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの近くを通過して仕事に行かれてある人たちには気軽に挨拶や声掛けし、ご近所で不幸があったときなど職員は葬儀に参列したりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に参加しており、利用者は地区のお祭りなどに参加させてもらっている。また、クリスマス会など催しのある時は声掛けし招待している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所内での催しものがあるときは地区の独居の高齢者のかたに声掛けし来園を促して交流を深めている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価から改善点を全職員で話し合い具体的な改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当方からの報告後必ず質疑応答の時間を作っており、参加者からの意見や提案を受けとめ職員で話し合っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎回運営推進会議の案内を持参しており、町の担当者とできるだけコミュニケーションをとるように努めている。また、積極的に情報を聞きに役場に訪問している。		もっと積極的に情報提供と共有をしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員で勉強会する機会を持ち、パンフレットを用意している。また必要な人には説明する準備をしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について勉強する機会を持ち、入浴時には身体観察を行いチェックしている。職員会議等で身体拘束について意見交流をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に重要事項説明書を十分に説明し家族からの疑問、質問に丁寧に答えるよう心がけている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者とのコミュニケーションにより意見、不満を引き出すよう努めている。また家族からの不満、要望を気軽に出していただくためご意見箱を設置しており、それらを随時職員間で話し合っている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族の面会時に詳しい報告をしており、定期的な連絡や広報誌の送付による報告をしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年に数回利用者の家族が集まる機会を設けコミュニケーションを図り意見や不満等を聞いている。またそれらを職員で話し合い改善するよう努めている。ご意見箱を設置して広く意見を求めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各月ごとの行事担当を決め職員の意見やアイデアを出してもらい反映、活用している。また職員会議で上がった意見は管理者より施設長へと報告されている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>シフト表にて調整できている。また必要時は臨機応変に対応している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者に不安を抱かせないよう極力異動や離職のない様人選しているが、その様な場合は利用者や家族に対して説明している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>経営母体である社会福祉法人が採用を決めており、求人案内等で広く募集し、採用に対する排除項目は無い。また配置希望や資格取得、勉強会への参加を促している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人全体で外部より講師を招いて新人研修を行っている。また、毎朝職員遵守事項を音読し、再確認している。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体の研修のほかに毎月地区のグループホーム部会主催の研修やその他外部の研修に参加している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区のグループホーム部会の一員として研修や懇親会などに参加しコミュニケーションを図っている。またその他の施設主催の催し物があるときは案内をいただき交流を深めている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>上司は職員の悩みストレスをいち早く察知し相談を受けやすい環境をつくるように努めている。また、法人全体の親睦会に参加しストレス軽減になるよう取り組んでいる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各職員が半期ごとに目標を立て達成できるよう努力している。また毎年定期健康診断を実施しており、職員の体調に配慮している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者一人ひとりとのコミュニケーションを大切にし、積極的に話しかけることで本人の不安や不満を理解、共有し、安心して生活できる環境を提供できるよう努めている</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族とのコミュニケーションを図り、家族の思いやニーズを把握し受け止めるよう心がけている。又その為に運動会や夏祭り、誕生会、敬老祭などの行事への参加を促している</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族や本人とのコミュニケーションを密にし、ニーズと事業所でできるサービスを照らし合わせ、何が必要なかを検討し対応している</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の経歴や生活環境を把握し、共通の話題を考慮した上で、他利用者を交え談笑することにより親密な関係を築き、安心して日常生活が送れるような環境づくりに努めている</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩としての敬意を持ち、昔の生活や文化を聞き学んでいる又、共に日常生活を送る中で洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の準備、後片付け、掃除等一緒に行うことで支えあっている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に対し積極的に行事への参加を促し、利用者の喜ばれている姿や日ごろの生活状況を見ていただき喜びを分かち合っている。又御利用者の定期通院には家族に同行して頂き、必要な日用品等は持参して頂いたりして支えてもらっている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の生活歴や家族の状況を把握し、家族と利用者が疎遠にならない様行事への参加を促したり、尿とりパットなどの消耗品を持ってきてもらえるよう連絡することで会う機会を作り、面会時には自室や談話室等でお茶を飲みながら家のこと、親戚のことなど話され一緒に過ごされる環境を作っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら馴染みの場所へ同行して頂いたり、住まいの近隣の人たちに訪ねてもらえるようお願いしてもらったりしている。又知り合いの人への電話や面会でのコミュニケーションを大切にしている		受け身の態勢ではなく、利用者が遠慮なく要望できるような環境づくりに努めていきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は生活の中から利用者同士の人間関係を把握し、全員で参加できるレクリエーションやゲーム、創作の機会を作り利用者間のコミュニケーションを図ることに努めている		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後でも本人や家族に対して相談を受ける準備をしておき、外で偶然会ったときなどこちらから声掛け、挨拶するよう心がけている		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとコミュニケーションをとり、思いや意向について理解している。又それが出来ない方については家族と話し合い本人の希望を把握し、検討するよう努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族とのコミュニケーションを密にし、小さな事柄でも情報を提供していただき、これまでの生活習慣やライフスタイルを把握するように努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の暮らしの中で、スタッフは全利用者の生活リズムを記録し残している。その記録は一見して把握でき特別な行動については申し送りや別途明記し、全スタッフで把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりのニーズに合ったサービス内容を全職員で話し合い、かつ本人や家族の希望を取り入れた計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当スタッフがモニタリングを行い、それに基づき全職員で見直しを行い変更、追加を検討し実践的な対応ができる介護計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況や表情等を解りやすい言葉、文章で記録することで情報を共有し、よりよいケアに生かしている。また、介護計画をモニタリングし必要性があればその都度見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、利用者の負担にならないよう、往診や受診を依頼している。また、入院による認知症進行防止のため早期退院できるよう職員による支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアを依頼し来園して頂いている。また民生委員に運営推進会議に参加してもらっている。消防署から救急法の指導を受けている。本人の意向があればその他の機関と協力する準備がある。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者との情報交換を行っており、必要に応じてご家族に紹介している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターより空室状況の問い合わせはあるが、協働しているとは言えない。		必要に応じてこれから協働していきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族へ説明し、同意と納得の上これまでのかかりつけ医を基本とした医療機関への受診を行っている。ご家族とともに職員が同行し、受診結果を一緒に聞きながら話し合っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的な専門医への受診の際は必ず職員が同行し、医師への状況報告や相談を行い治療方針を決定してもらっている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を職員として配置しており、24時間オンコール体制取っているためいつでも相談、指示を受けることができ、日常の健康管理に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>職員が頻回に面会に訪れストレスを軽減するよう会話したりしている。入院が長引かないよう家族、医療機関との情報交換を密にとるよう努めている。また、退院時の説明には家族とともに職員も同行し、今後のケアに生かしている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期の介護については説明書を作成し、家族に説明している。仮に終末期を迎えても本人や家族の意向により受け入れられる準備をしている。</p>		<p>看取り介護についての指針やマニュアルは作成してあるが、未だ重度化した御利用者がいないため周知されていないため、早期に職員に周知させていきたい。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>終末期の介護について家族に説明しており、事業所としてできること、できないことを見極め検討している。現在まで該当者はいないが、準備を行っている。</p>		<p>終末期の利用者が未だおられないため、具体的な内容をこれから検討していきたい。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の昼、夜間の状況、嗜好、ケアの内容など詳しくまとめ次のケア関係者へ情報提供を行い、ダメージを最小限に抑えるように努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の尊厳に配慮し声掛けや対応をするよう努めている。また個人情報保護の観点から記録類は他人の目に触れるところに置かないように配慮し、外部では一切利用者や内部の話題を出さないようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>御利用者自身が意志の決定ができるような声掛けにて対応している。利用者と過ごす時間を通して希望や関心のある事を見極め本人が選び自由に暮らせる環境を作っている。</p>		
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者に時間や行動の制限は無く基本的に自由に利用者のペースで過ごしてもらっている。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>定期的に理容師に来訪してもらっている。希望があればパーマや顔そりなどのサービスも提供できる。なじみの店に行かれる方もいて家族と一緒に美容室へ外出される</p>		
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の好みを聞きながらメニューを調整している。調理の下ごしらえや後片付けなどできる範囲で協力してもらっている。また職員といっしょに楽しく食事をしている。</p>		
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>自宅にいるときと同様に本人の望む嗜好品は自由に楽しめるよう支援している。規制はないが、誤嚥などの事故につながりそうなものについては注意を払っている。</p>		
58	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>日中できるだけ紙パンツの使用を減らし、定期的にさりげない声掛けにてトイレ誘導している。また、利用者のトイレへ行きたいサインを見逃さないよう努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	声掛けにて入浴の希望をきいており、本人のこれまでの生活リズムや習慣に沿うように入浴してもらっている。職員の人員の都合上曜日や時間帯をすべて本人の希望に合わせることはできていない。		可能なかぎり本人の希望やタイミングに合わせていきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者は自由に居室や談話室で気持ちよく休息されている。また夜間不眠の方に対しては家族、医師と相談し薬や生活リズムの調整を行い支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に合わせたお手伝い、手工芸を行い認めることで満足感を味わってもらう。また、気分転換に外気浴を取り入れたり、ドライブや外出を計画し実施している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員とは言えないが、できる方には買い物に行った際に本人より支払いしてもらうよう心がけている。基本的には本人に所持してもらうよう努めているが、家族や本人の希望がある場合は職員で管理している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気浴や買い物、ドライブなど本人の希望に沿って外出できるよう支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた外出を実施している。時には家族にも参加してもらい、外泊や遠出の場合には家族の協力のもと支援している。		もっと家族と共に参加できる外出を計画していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には自由に電話をかけてもらうよう支援している。またご家族への手紙など自由に出せる環境を作っている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には自室にてゆっくりお茶を飲みながら会話できるように環境作りに努めている。また、積極的に行事への参加の声掛けを行い来園して頂くよう心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないで転倒、転落防止に向けた安全対策を話し合い実行している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はスタッフ同士声を掛け合いながら見守りしている。夜間は利用者を確認しやすい場所で過ごし、定期的な巡回を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁、はさみ、針などは利用者の目の届かない所に保管しており、使用時はスタッフが手渡し見守りのもと使用していただくよう心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状況を把握し事前に防止している。またそれぞれのマニュアルを作成し、もしもの場合に備えている。ヒヤリハットの報告書を作成し全職員で検討し事故防止に努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に勉強会を開き全職員が理解している。また急変時のマニュアルも準備している。		いろいろな状況に対応できるように定期的に勉強会を行っていききたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	定期的に消防所の指導のもと避難訓練を実施している。また運営推進会議の場で地域の消防団の協力をお願いしている。ライフラインが寸断された状況下のために非常食も準備している。		地域の方の協力を得た避難訓練に取り組んでいきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	普段より家族とのコミュニケーションを図り、利用者の近況を報告し、起こり得るリスクを伝えて対応策を話している。またケアプランの検討を定期的に行いリスクの見直しを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを行い体調の変化を把握している。日常生活においても表情や行動など注意深く観察し、申し送り時には些細な変化でも情報を共有するように努めている。異常時には看護師へ報告し医師とも速やかに連携を図っている		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬ファイルを作成し、薬の名前、目的、副作用について理解するよう心がけている。服薬時には名前、日付を声に出して確認し服薬介助を行っている。飲み残し等ないように職員が確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックシートを作成し毎日の排便確認を行っている。また、自然排便を促すために毎日の軽体操などで身体を動かすよう努めている。排便の困難な方についてはセンナ茶や下剤のコントロールをしている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを促しており、できない方については職員が介助し口腔内の清潔保持に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量のチェックシートに毎食の記録をし把握している。また、管理栄養士の作成したメニューに基づき食事、間食等を提供している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成してあり全職員が理解しているが、限られたものであり肝炎、MRSAは無い。		多種の感染症に対応できる個別のマニュアルを作成したい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内やまな板、包丁は使用前にキッチン用アルコールで消毒している。また、食材はその日使用するものをその日に配達してもらっており、賞味期限をチェックしている。調理器具や食器は洗った後に必ず乾燥機を使い乾燥している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には観葉植物を置き緑を取り入れ違和感や威圧感がないように心がけている。またスロープがあり段差を解消している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆の集まる居間にはできるだけ季節の花を飾るよう心がけている。また季節感を取り入れた飾り付けや制作物を掲示している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人掛けのソファが3つあり、気の合う方同士で座ったり、少し離れた所に食事のテーブルがありそこでも自由に過ごせるスペースを確保している。		現在喫煙者はいないが、これから考えていきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に今まで使い慣れたものを持ってきてもらっている。本人が過ごしやすいように家具の配置など自由にももらっている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室にはエアコンと換気扇が完備しており、職員は利用者の状況を観察しこまめに温度調節している。また、居間では利用者に声掛けし調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間や廊下にはできるだけものを置かないように努めている。また、廊下やトイレには手すりを備えており転倒の防止に配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは分かりやすいように大きく表記しており、各居室には個々の目印になる装飾をして混乱の無いよう工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には花や野菜を植え心身のリフレッシュができるよう心がけている。可能な方は苗を植えたり、草取りをして頂いている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の家族や地域の人たちとのコミュニケーションを大事にしており、近所のイチゴ農家の方のご厚意により全利用者とその家族に参加を募りイチゴ狩りを催したり、敬老会やクリスマスのはきはボランティアの方たちに来園し演奏して頂き、その時は利用者の家族や近隣の独居老人の方たちを招待し一緒に演奏を楽しんだり、昼食をとったりしてコミュニケーションを図っている。また、地区の夏祭りへ参加し地域の方がたとのふれあいを大切にしている。町の社会福祉協議会主催の社会福祉大会へ参加したり、町の福祉課からの要請で看護学生の実習の受け入れを積極的に行っている。